第165号

発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館

毎月1回15日
定価1部5円

# なかさと

| 4月1日現在 | |
|---|---|
| 人口 | 7,801(−107) |
| 男 | 3,876(− 45) |
| 女 | 3,925(− 62) |
| 世帯数 | 1,721(− 9) |

カッコ内は前月との比較

## 教職員の人事異動

### 三校長の異動

恒例の年度末における、学校教職員の人事異動が、去る四月一日付で県教育委員会から、発表された。中里村においても転出者二十四名、退職者二名、転入者二十七名の大巾な異動があった。

校長の異動では、日岩務男田沢中学校長は長岡石坂小学校長に栄転、後任には、柏崎野田小学校より田中敏雄氏、西野政男田沢小学校長は、小千谷地区指導主事に栄転、後任には十日町地区指導主事の上村二郎氏、広井正三倉俣中学校長は、小千谷南荷頃小学校長に栄転し、後任には、長岡宮内中学校より、小黒富一郎氏が、それぞれ発令された。

なお中里村における教職員の人事異動は次のとおりである。

【田中敏雄田沢中学校長】

【小黒富一郎倉俣中学校長】

【上村二郎田沢小学校長】

転出

▽田沢小学校
西野　政男（小千谷地区指導主事）

▽貝野小学校
柳沢　一成（直江津市国府小）
小林　和子（柏崎吉井小）
日倉　泉（退職）
吉川　尚子（十日町小）

▽倉俣小学校
片山　正（柏崎小）
飯塚　満（十日町小）
鯉沼三代子（中頸黒谷小）
二木　久子（新潟市下山小）

▽貝野小学校
内山　美吉（北魚堀之内小）
風巻　浩子（十日町小）
綿貫　佳子（中頸勝穂小）
▽清津峡小及び土倉分校
渡辺　勝子（北魚東湯之谷小）
柴田　順子（退職）

▽田沢中学校
目岩　務男（長岡石坂小）
村山　悦夫（津南外丸中）
小池　啓治（十日町吉田中）
宮越　洋子（長岡本北中）

▽倉俣中学校
広井　正三（小千谷南荷頃小）
内山　一良（貝野小）
永井　洋一（三島中）
小林　和徳（柏崎上米山中）
今井　秀雄（中頸吉川中）
秋山　久子（北魚伊米ケ崎中）

▽貝野中学校
中森　保（北魚伊米ケ崎中）
笹川　厚子（南蒲森町中）

転入

▽田沢小学校
上村　二郎（十日町小）
河内　千明（十日町野中小）
鈴木喜代子（新採用）
清水　裕子（新採用）
柄沢　章子（新採用）

▽倉俣小学校
赤堀　金造（柏崎市高田小）
岡田　操子（東蒲日出谷小）
水沢　克夫（西蒲七穂小）
鈴木千代子（新採用）

▽貝野小学校
内山　一良（倉俣中）
岩田　明子（新採用）
吉山　恒子（新採用）

▽清津峡小及び土倉分校
丸山　剛（新採用）
畳野　良子（新採用）

▽田沢中学校
田中　敏雄（柏崎野田小）
石塚　栄策（三島北辰中）
吉海　ヨネ（十日町南中）
藤木　正臣（津南宮ヵ崎中）
大町　敏子（新採用）

▽倉俣中学校
小黒富一郎（長岡宮内中）
峰村　辰典（長岡北中）
藤田　末作（十日町中）
寳川　清（三島大河津中）
円正　武夫（新採用）

▽貝野中学校
本間　元（北蒲安田中）
塚田　勝子（新採用）

### 新任のあいさつ

田沢小学校長　上村二郎

昭和三十三年四月、十日町小学校から、新米教頭として、当校に、お世話になり、完全給食の実施などで、御協力を、いただきました。三十七年四月、十日町小学校にかいり、十日町小学校の、建築が、完了したところで、四十年四月、津南町下船渡小学校に転勤しました。

二年たって、四十二年四月、三度目の十日町小学校勤務、三ヵ年、その間、市の教委の嘱託として、こちらの地、教委の皆様から、いろいろ御指導いたゞきました。

このたび、ゆかり深い田沢小学校に再び勤務することになりました。

新卒の高道山小学校を、入れますと、三度中里村にお世話になるわけです。当時の在学生や御父兄の皆様、御指導いたゞきました、地域の皆様がそれぞれ御健在で御活躍になっていられますので、転勤してきたというより、旅に出て久しぶりにわが家にかえってきたといった感がします。

久しぶりに見る中里村の発展の様子、歴代校長の立派な経営による、田沢小学校の充実発展のようすなど、かねがね話には聞いていましたが、十日間過してみて、たゞたゞ驚いています。日がたつにつれ、責務の重大さを、ひしひしと感じ、こどもたちの幸福のために、全力をつくしたいと考えていますので以前に増して、御協力、御援助下さいますよう、お願い申し上げて、新任のあいさつにかえさせていたゞきます。

### 御挨拶

田沢中学校長　田中敏雄

日岩校長先生のあとを受けて本校に着任いたしました。

田沢中学校はその由緒といい伝統といい、郡内は勿論、県内でも自他共に許す立派な学校であります。その栄ある学校に、今回職を奉することになり、感激一入のものがございます。

この輝しい伝統、立派な校風は、歴代の校長をはじめ多くの先生方の努力は申すまでもありませんが、地域の方々の並々ならぬ御協力があったればこそと関係ご当局をはじめ、皆さんにますので、深く敬意を表する次第であります。

中魚沼は私にとりまして、初めての勤務地であり又、本年は例年にない豪雪のことと、全貌を知ることは出来ませんが、美しい静かな自然環境、寒晴しい体育館、立派な校長室、水泳プール、そこには二千名の純真な生徒が待っていてくれました。

私は先生方と手をとりあってこの生徒達に出来るだけのこと

（二面へつゞく）



## 思えば人の 青なりけり

公民館長　斉藤大馨

社会開発の名のもとに、利用価値のあるものは、科学技術を動員して、どしどし開発する。社会はものすごいテンポで流動していくが、人間性はその割り合いに向上しない。いや、却って後退しつつある。

社会の日進月歩に目を奪われ世の中の方はとり残されているように思われる。ここにいう世の中とは「人間と人間のあいだ」ヒューマン・リレーションのグループをさしている。むろん、人間をはなれて世の中もなければ、社会もあり得ない。生産力が発展しない近代以前では世の中と社会とは、ひとつにとけ合っていた。

工業が高度化されると、人間関係を中心とする世の中とは、一応別個な利益社会が成立するというところのゲセルシャフトで心の交流を主とするゲマインシャフトの世の中とは、ハッキリ一線を画するようになった。社会は目を見張るほど進んだが世の中はますます悪くなる。

利潤追求と権利思想で武装した現代人の多くは、報恩とか感謝とか罪悪感などはみじんもない。セールスのためには手段をえらばず、あの手、この手をつかう。相手を倒さなければ、自分が倒れるからである。産業社会以外の社会のように古いノレンの情性で生きられる世界ではない。

それだけに「人間らしさ」が行方不明になっている。これは産業社会だけに限らず、政界でも公務員でも同じような傾向が出ている。いつの時代でも汚職はあるが今日ほど甚だしいときはない。

明治の一代の傑僧、福田行誡氏は「いたづらに枕をてらすともしびも思えば人のあぶらなりけり」と歌って居られる。この「密灯述懐」は当時の御歌所長高橋正風氏が感激して、明治天皇に推賞されたそうである。天皇もことのほか御感動されて「わたしなら下の句を『思えば民のあぶらなりけり』にする」といわれたという。私どもは木朽の「ともしび」を仰ぐとともに、みずから光になってもえあがろう。法灯明が自灯明になるところに生甲斐を感じる。

法然上人の遺足、勢観房源智は、上人のつねのことばとして「武士と上人とは、多く最後に到って恥時をあらわす」と、自著の「選択要決」で述べている。金剛の戒師、念仏の元祖上人ですら、これだけの深いさんげをもって居られる。いわんや私共断死すべきである。

戦場を家とする武士は、死をみること帰るがごとしと、幼いときからタタキ込まれている。葉がくれ精神は「武士道とは死ぬことを見つけたり」につきる。

法師や侍は生死のさ脱（とり）に一生をかけて修業する。修行そのものが利他行に転換されて、衆生済度を本命にしている。いのちを的にしている点では、武士も法師も同じ境地である。

ところが法然上人によると「最後に到って恥時をあらわす」と自身をきびしく戒いておられる。カラ念仏からは、こういう「恥時」のさんげは出てこない生きざま生きようとする自己の本罪と、対決していない証拠である。

とにかくさんげすらなし得ない、おのが業障を自覚しなければ、清らかな人間らしい生き方にいつまでたっても到達し得ない。罪悪いっぱいで懺悔を在厳しているのが、ほかならぬ私である。

## プロパンガスを安全に使いましょう

一、点火する前ににおいに注意する。

二、使った後、寝る前、外出のときは必ず「元栓」をしめる。

三、風呂がま、大型湯沸器などを使うときは、換気を充分にする。これらの器具はガスの使用量も多く、密閉された場所で使われるのでとくに注意が必要です。排気筒、換気口を設備しましょう。

四、ガスの火が吹き消え、立ち消えしないよう注意する。ナベをかけたまま外出したため焦こげて火が消えることがあります。

五、ガス洩れのときは、近くの火を消して元栓、容器元弁をしめて窓や入口を開けて、ガスを出す、すぐ点火したり、電気器具のスイッチを入れるのは危険です。

六、ゴム管はホースバンドで、しっかり止めましょう。

七、元栓や、ゴム管の継ぎ目はときどき調べましょう。石けん水をつけると泡がでるのでわかります。マッチでやるのは危険です。

八、容器の取りかえは販売店にまかせましょう。

## 井ノ川桂仙追悼句会

中里村排句会

本名よりも、桂仙さんで親しまれてきた、井ノ川吉治氏が、去る三月しづかに逝れた。

囲碁である氏は、又俳句作家でもあり、中里村俳句会創立以来、その指導に献身的な、努力を払われ、又、自然をよく愛し数々の佳句秀句を遺され、その死が惜まれた。十日夜公民館に於て、生前の氏を偲び追悼句会を開き、心より氏の御冥福を祈る。

### 追悼句

遺書崩戒る日若師の怒りとも　蹊丘

振り向かぬ旅どこまでも雪雲雪　おの江

目を閉じて噛む草の芽のほろ苦く　桂仙

忌心に消えし春の星　涼子

指の渦が流れる陽火の中の吐息　田紀

雪の痛みへ灯の水苦蕪を咲かす　土牛

二月昌桂仙翁と伺ぎ素う

春うらら翁でき庭の色し咲き　栄山

酒汲めば春宵を酔う虚無の詩

陽に光る春の大河の瀬が速く　春柳

春愁に花の旅ゆく君送る

君想う酒の気鋭で花の旅　春野

野も山も心も晴れて春霞

待ちわびる下朋草も笑顔だす　大泉

絶唱の樹々に春光眼りなし

学びの庭陽に包まれて椿花つ　桂

## お知らせ

◎し尿汲取手数料変更について

四月一日より、左記の通り、し尿汲取手数料が、変更になりましたのでご、お知らせ致します。

十八リットル、二十四円が、二十七円に、なりました。

◎飯山線の列車時刻変更について

四月五日から当分の間列車の運転時刻が、変更になりましたから、御利用の方は、御注意下さい。

特に、朝の一番列車は、上り下り共に大巾に変更になりましたから、十分気をつけて下さい。

## 人生模様

◎産声

| 氏名 | 父の名 | 部落名 |
|---|---|---|
| 小林　勤忠 | 山崎　服部　洋子 | 清夫 |
| 小巻沢いみ子 | 虎雄 | 荒屋 |
| 渡辺　直美 | 寅治 | 田中 |
| 吉梁　博幸 | 幸司 | 東田尻 |
| 服部　美和 | 定行 | 上山 |
| 清滝　信子 | 重信 | 如来寺 |
| 樋口　還生 | 勝利 | 東田尻 |
| 桑原　敬和 | 重治 | 遠り山 |
| 山田　智美 | 晴次 | 田沢 |
| 樋口　桂子 | 成 | 上山 |
| 佐藤　賢一 | 孝一 | 遠り山 |
| 山本　剛寛 | 桂 | 桂 |

◎高砂

| | | | |
|---|---|---|---|
| 〈新郎〉井ノ川四郎(三二)如来寺 | 〈新婦〉渡辺マリ子(一八)岩船郡 | 〈新郎〉吉積(三六)十日町 | 〈新婦〉柳　八重子(三六)本宮敬 |
| 〈新郎〉小林　穂積(三四)埼玉県 | 〈新婦〉南雲タツエ(三三)重地 | 〈新郎〉大淵　直義(三八)東京都 | 〈新婦〉樋口　ノリ(三三)重地 |
| 〈新郎〉石川　忠宏(三六)新潟市 | 〈新婦〉早川　カツ(三三)田中 | | |

◎昇天

| 氏名 | 年令 | 部落名 |
|---|---|---|
| 村山　正也 | (六七) | 宮中 |
| 上原龍太郎 | (七三) | 上山 |
| 樋口　三栄 | (一九) | 白羽毛 |
| 桑原　米作 | (八〇) | 山崎 |
| 広田　広作 | (八七) | 干溝 |
| 山田　定信 | (六七) | 東田尻 |
| 滝沢　一正 | (四四) | 重地 |

# 祝・祭日に国旗を忘れずに掲ましょう

老人クラブ

## 御挨拶

倉俣中学校長 小黒富一郎

春の陽に豊深き里輝きて

任地の校舎いとも神々しく

三月二十七日、前広井正三校長に言われて、新教頭とうけたって倉俣に生れてはじめて、足入をした時の気持ちであります。お天気のよい日で、春陽さんさんと輝き、道の両壁は、丈余と思われる雪、へつりのあたりから見た集落の屋根、色とりどりに輝いていて、村すぎて校門に立った心境であります。

新まえ校長で何もわかりません。何卒よろしくお引たての程を、お願い申しあげます。

私は本年度こんな学校運営をしたいと考えています。

一、縁あって職場を同じくするものとして信頼と敬愛と理解のもとに助け合い、はげまし合い協力し合って倉俣教育に専念しよう。

二、教育は複雑的継続的計画であるため、組織を作り役割を分担し、その責任を果さんとするところに、職員の学校運営への、具体的参加であることを理解し合う。

三、小さいことでも根深い教育の芽があるので、全職員気易く話し合う場を作り合う。

四、全職員協力して学力、生きた学力の向上につとめる。

五、生徒一人一人を理解し、たくましい生活力のある生徒に育てるように努める。

以上五項目について、職員に話しました。

地域と学校が結び合う、先輩有識者、村民各位のご指導を、切にお願い申しあげます。

中里村の皆さん、御機嫌如何でしょうか。例年ならば二月に降る雪が、どうした気候の異変か本年は三月が最高の降雪量になってしまいました。

しかしその雪も四月に入り春らしい陽気に次第に減ってまいりました。

私ごと、このたびの教員異動により田沢中学校から長岡市立石坂小学校へ転勤を命ぜられ、過日こちらへ参りました。

田沢中学校在任一ヵ年でしかなく、私としては転勤とは夢にも思って居りませんでしたので、それだけに突然なことで、自分でも驚いて居ります。

しかしその一ヵ年の間に病にたおれ入院をして、生徒諸君をはじめ、田沢中学校の教職員の皆さん及び私の関係する諸団体の皆さんに、多々の御厚意を、おかけした事実は否めません。この事と私の健康を案ずる県教委の温情とが、この転勤であったと思います。

御迷惑をおかけ致したにも拘らず、関係の皆さんからは、心の温まる御厚情と御支援を賜わり、精神的には終生忘れ得ない一時期を、過させて頂いたことを衷心より感謝して居ります。

今後幾度となく中里村の自然の美しさとそこに住む、中里村民各位の温和な人情を思いおこし、私の心を和ませてくれることでしょう。

任地は自宅から徒歩、バスを利用して、約四十分のところですし、自宅は長岡ですのでこちらで何か私のお役に立てることはどうぞご命じください。

最後に皆さんの御健康をお祈りして御礼のことばと致します。

## 転任のごあいさつ

前田沢小学校長 西野政男

陽春の候を迎えますが、みなさまには、ますますご清健のこととお慶び申し上げます。私ごとこのたび小千谷地区指導主事を命ぜられ、過日着任いたしました。

中里村立田沢小学校長としての在任三か年間、公私をとわずお寄せいただいた、みなさまのあたたかい、ご指導、ご厚情が胸に熱くせまる思いでございます。

心からお礼申し上げます。

三年間をふりかえってみますと、昭和四十二年九月、県小学校研究会指定校、中越地区放送教育研究協議会指定校、NHK教育放送研究校、中越地区放送教育研究発表会を東京学芸大学名誉教授、教育課程審議会長の木下先生をお迎えしておこなったこと。昭和四十四年十一月には日赤県支部指定校としてJ・R・C研究会を、その道の権威日赤本社の橋本裕子課長をはじめ県内各地から指導者をお願いして開催したこと。どちらも四五百名の参会者があって盛大におこなわれたことや、V・T・Rの設備、水泳プール、交通信号機の設置をはじめとする教育施設の充実等のご援助、ご協力、運動会、スキー大会、文化祭等に寄せられたみなさまのご協力など数えたてられません。

また体育協会の運営、剣道部、スキー部、スポーツ少年団等々に寄せられた若い方々のご応援などひとつひとつ思い出しております。本当にありがとうございました。

何とぞ今後とも、いっそうのご叱声とご指導をお願いいたします。

みなさまのご健康をお祈り申しあげ転任のごあいさつといたします。

## 退任の挨拶

前田沢中学校長 白岩嘉男

（一面よりつゞき）

をしてあげたいと誓いました。時はあたかも、激動と、躍進の一九七〇年代の幕あけを迎え教育によせられる期待は、誠に大きいものがございます。

しかし教育が、人間をつくるという極めて密度の高い仕事であることを考えます時に、その成果は一朝一夕で望むことは出来ません。

さいわいにも村長さんはじめ関係各位のお骨折で、本年度は土倉分校の改築、貝野小のプール、倉俣小の改築等予算の重点が、文教面にかけられておることを思います時、当局の教育によせていただく熱意に、心うたれるものがございます。

任の重さを痛感しながらも皆様の期待にこたえべく、田沢の教育に全力を燃焼させていきたいと考えます。

皆様の暖かいご支援をお願い し新任のご挨拶といたします。

## 農業センサスの結果から

村統計係

本年二月一日を期し、実施された農業センサスの中間集計の結果を公表致します。

その結果によると、農家数では、三十五年から、四十五年までの、十年間に五十四戸離農したことになります。この離農の状況を地区別に見ると、田沢地区が十六戸、倉俣地区が十三戸、貝野地区が十九戸と、それぞれの地区でいずれも離農が進められている。

専業兼業別でも、専業農家は三十五年に二三六戸、一八・四%であったものが、四十五年ではわずか八十八戸七・一%に減った。また兼業農家における第一種兼業農家数は、三十五年に八一一戸、六三・二%であったものが、四十五年には、五七二戸四六・五%に減り、逆に第二種兼業農家数は、三十五年に、二三六戸、一八・四%であったものが、四十五年には、五六九戸四六・三%に増加した。これは専業及び第一種兼業が、第二種兼業へと移行していることを示している。

農家世帯員数では、三十五年から四十五年に一五九一人、二〇・八%減少した。

地区別に見ると、田沢地区は七三一人、一八・二%の減少、倉俣地区では、四四四人、二二・五%の減少、田代地区では一〇五人、三五・二%の減少、貝野地区では、三一一人、二三・三%減少した。

村内農家人口がほぼ平均的に流出している。これは、我が中里村も高度経済成長に、刺激され第一次産業から第二次、第三次産業に流出したものと見られる。

経営規模別にみると、三十五年から四十五年の十年間に、五反百姓の増加ではなく、第二種兼業農家の増は、日曜百姓の増加を現わしているのではないだろうか。

農業従事者数では、三十五年三八六七人、五〇・四%であったものが、四十五年、三六四九人、六〇・四%と構成比上からは増えている。これは小規模経営及び、第二種兼業農家の増加によるものと見られる。

以上概略を記しましたが、本調査に御協力頂き、感謝申し上げる次第でございます。今後ともよろしく御協力お願い致します。



## 国旗の歴史と意義

中里村公民館

本年一月二十七日付、明治三年太政官布告によって「国旗」の取り扱いが決められてからちょうど百年目にあたります。

このため、去る一月二十七日は社団法人国旗協会が渋谷公会堂において「国旗布告百年祭」を開催しましたが、同じような催しは地方でも行なわれたのではないでしょうか。

一、日本の国旗のもつ意味

「日の丸」の旗を見る人により、それを見る環境等により、さまざまな印象や感懐を与えますが「日の丸」は何を意味しているのでしょうか。

「日の丸」は太陽を象徴しているのですが、その中で赤い丸は国家のエネルギーと民族の円満をあらわし、旗地の白はわが国民の純血と誠実をあらわし、そして日の丸と旗地の構図は、平和と繁栄をあらわしたともいわれています。

二、国旗の起源

ことしは、「国旗布告百年」といわれるのは明治三年の太政官布告後の経過年数で、実はその十六年前の安政元年（一八五四年）に公式に「日の丸」が国を代表する旗として決められたという史実もあります。したがって、わが国の国旗の起源としては二つの説があるわけですが普通明治三年から数えているのです。

国旗が必要とされた動機は、わが国の船と外国の船とを識別するためで、当時「日の丸」は「白地之幟」といっていたそうです。

この方式を受けつぎ、明治政府は維新後の近代法制の下で、明治三年一月二十七日、太政官布告第五十七号商船規則によって、国旗の制式（白地に日の丸とその寸法）が明確に決められ船には国旗をかかげることが規定されたのです。

このように、はじめは船にかかげるものとして定められたのですが、その後、明治五年に開港場所在地の県庁に、そして同六年には開港場所在地の裁判所にも掲揚されるようになり、さらに民間でも、次第に国旗が掲揚されるようになったのです。

それ以来、わが国の国力の伸びるにしたがって、国の祝祭日や国家的行事にも、この「日の丸」が掲揚され、国家の象徴、民族の象徴として国民の心のよりどころとして親しまれてきたのです。

三、戦後における国旗の取り扱い

第二次世界大戦後の連合軍下の占領時代は、ご承知のとおり国旗の使用を大幅に制限したのですが、昭和二十五年、当時の天野文部大臣が〝文化の日〟その他国民の祝日の行事について談話を発表し、「これらの日はよりよき社会、より豊かな生活を築きあげるために、国民こぞって感謝し、記念する日としてわれわれ国民が定めた日です。

〔中略〕このため、学校では国旗を掲揚し、国歌を斉唱することも望ましいと考える。また。官庁、各家庭でもぜひともこれらの祝日には国旗を掲揚し、祝意を示されるようすすめる」とのべ、これが契機となって、国旗掲揚の是非論が起ったのですが、やがて、各官公庁、職場、各家庭でも次第に国旗掲揚を実施するところが多くなってきたのです。

四、国旗に対する国民の感情

昨年三月総理府が行った「社会意識に関する世論調査」のなかで、国旗に関する質問によりますと、「誇り（頭がさがる感じ）をもっている」と答えたものが二十七%、「好感をもっている」が四十八%、「なんとも感じない」が二十二%、「反感をもっている」が一%、不明が二%という結果がでています。

国家意識がうすれたといわれる今日ですが、それでも国民の七十五%が、国旗に対し親愛の情を寄せていることがわかります。この国家意識を強く養うために、国旗を尊重し、敬愛の情をもち、この国旗掲揚を推進する必要があることと思います。

## 季節の話題

四月の和名は、卯月（うづき）といいます。陰暦ですからいまの太陽暦ではおよそ五月ごろにあたります。

古い文書や詩歌にこの卯月ということばがよく使われておりますがそのへんのところを頭に入れておかないとうじつまがあいません。

卯月ということばの由来は、一説には卯の花の咲く季節からとされていますが、一般には穀物の種を「植える月」がちがまったともいわれます。もっともらしい説としては、中国の周時代の暦では四月が十二支の卯にあたるので卯月というのだとされています。

卯の花というのは日本のほとんど全域の原野に自生する、うつぎ（空木）の花のことです。この木の茎の中がからになっていることからこの名がありますが、五月ごろになると白い五弁の花を咲かせます、初夏の風物時に欠かせない花です。

そのほか四月の呼び名として夏初月、清和、乾月、正陽月、花残月、余月、巳月、仲呂、立夏、小満などの異名がありますがいづれも旧暦の陽気と事物によせたものです。

## 春の交通安全運動について

田沢・倉俣駐在所

この運動は、人命の尊重ということから「交通事故防止の徹底」を目標としています。

毎年四月は

◎新入学の時期であること

◎春の開放感のため注意力にかけること

などなどから、本県では交通事故が増加しています。

この運動を機会に「車を運転する人も」「道路を歩く人も」正しい交通マナーを身につけ、みんなで「交通事故を起こさないよう」「交通事故にあわぬよう」注意しましょう。

◎道路を横断する時は「まわり道でも必ず横断歩道を渡る」「信号を守って横断する」「手で合図をおくり、自動車の通っていない安全な時にする」

◎歩行者の安全をまもるために、「運転中は、歩行者の安全を第一にこころがける」「横断歩道をわたっている人を認めたらその直前で一時停止する」

◎飲酒運転を防止するために次の三ない運動を家庭に職場に徹底する。

①酒をのんだら車を運転しない

②車を運転する時は、酒をのまない

③車を運転する人に酒をのませない

◎次に踏切横断について次のことがらに注意しましょう。

一、踏切の通行には、車もいったん、停止して、よく安全を確めてから通る。

二、警報機が、鳴っているときは通らない。

三、非常のときは、列車を止めるよう手配する。

四、警報機の柱等に、非常ボタンが、設けてある踏切を、支障したときは、直ちにこれを使用する。

五、自動車には赤旗、発えん筒を、備えつける。

六、鉄道用地内の、立ち入りや線路を歩かない。

七、子供は線路内で、遊ばせないよう、保護者が関心をもつ。

## 情熱の焦点に向けて

青少年総合対策

新潟県における、青少年健全育成は「青少年に正しい情熱の焦点をつくらせる」を中心目標にして、関係する諸施策のうち直接的対策を組織化し、体系化して昭和四十五年度、いわゆる本年度から実施されることになった。

この県の方向と一体的関係において、中里村でも具体的な動きがみられ、なかには、事業を中心化し組織化した総合対策実施計画案をすでに作成し、本年度から県と同一歩調で実施できる体制を着々と、固めている。

青少年に正しい情熱の焦点をつくらせることに大いに期待します。

尚県下四市町村が指定され、この中に中里村が含まれました。

## ～三行知識～

◎米ヌカをいぶすと蚊は逃げ出す。蚊などいぶしておくとハイもとなくなる。

◎にんにくの皮をむいてお米の中へ入れておくと虫がつかない。